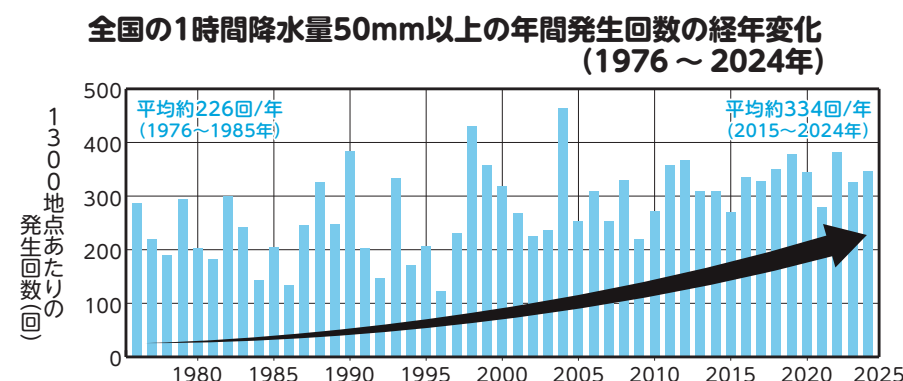


大雨から命を守る

 雨の降り方に注意

大雨が増えています。

過去約50年の記録からも大雨が増加傾向であることがわかります。



10年間の
平均回数が
50年で約1.5倍に
なっているよ



出典:気象庁ホームページ
「全国(アメダス)の1時間降水量
50mm以上の
年間発生回数」をもとに作成

局地的大雨・集中豪雨

突然、狭い地域に強い雨が数十分間降る局地的大雨や、「線状降水帯」など同じ地域で数時間にわたって強い雨が降る集中豪雨には、十分な注意が必要です。

線状降水帯

同じ場所で積乱雲が次々と発生して帯状に連なる現象で、数時間にわたり同じ場所に停滞し大雨をもたらします。



出典:気象庁

こんな状態に注意

離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合がある。



注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する

大雨や洪水の警報・注意報の発表基準に達していない雨でも、災害が発生するおそれがある。



短時間で危険な被害発生のおそれ

激しい雨が降ったり、まわりから雨が流れ込んだりすることで、川の水かさが増え、危険な状態となる。



豆知識

雨の降り方

気象庁などが予報で使う一般的な用語と雨量です。

予報用語	1時間雨量	雨の降り方
やや強い雨	10～20mm	ザーザーと降る。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
強い雨	20～30mm	どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれ出す。
激しい雨	30～50mm	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになり、山崩れや崖崩れが起きやすくなる。都市では下水管から雨水があふれる。
非常に激しい雨	50～80mm	滝のように降る。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすくなる。
猛烈な雨	80mm～	恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。



洪水への警戒



洪水への注意が必要なのはどこだろう？



ハザードマップで浸水想定区域を確認しておこう。

能美市に影響のある手取川、梯川、鍋谷川、八丁川について、印刷物のハザードマップやデジタルハザードマップ(10ページ)を見て確認しよう。

8、9ページを見てね



能美市と洪水

昭和9年(1934年)7月11日、白山ろく一帯で雪解け水と記録的な豪雨とが重なり、手取川の本流・支流ともに許容水量を超えた濁流が流れ込み、下流の多くの民家や田畑が流されました。



昭和9年(1934年) 手取川洪水の様子

令和4年8月大雨

令和4年8月4日、鍋谷雨量観測所では、午前3時50分から5時10分までの1時間20分の間に131ミリの雨量が観測されました。

能美市には午前4時18分に大雨警報が発表され、市では6時40分に鍋谷町と寺島町への避難指示を発令、併せて国造地区4町にも安全な場所への移動を促す注意喚起を行いました。



消防本部による和気町での救助活動



鍋谷和佐谷線の土砂崩れ



人身被害は無かったものの、住宅被害が多数発生(床上浸水:28件、床下浸水:139件)



土砂災害ってどんな災害?



ものすごい破壊力とスピードで、
起こってから逃げるのはとても難しい。

土石流

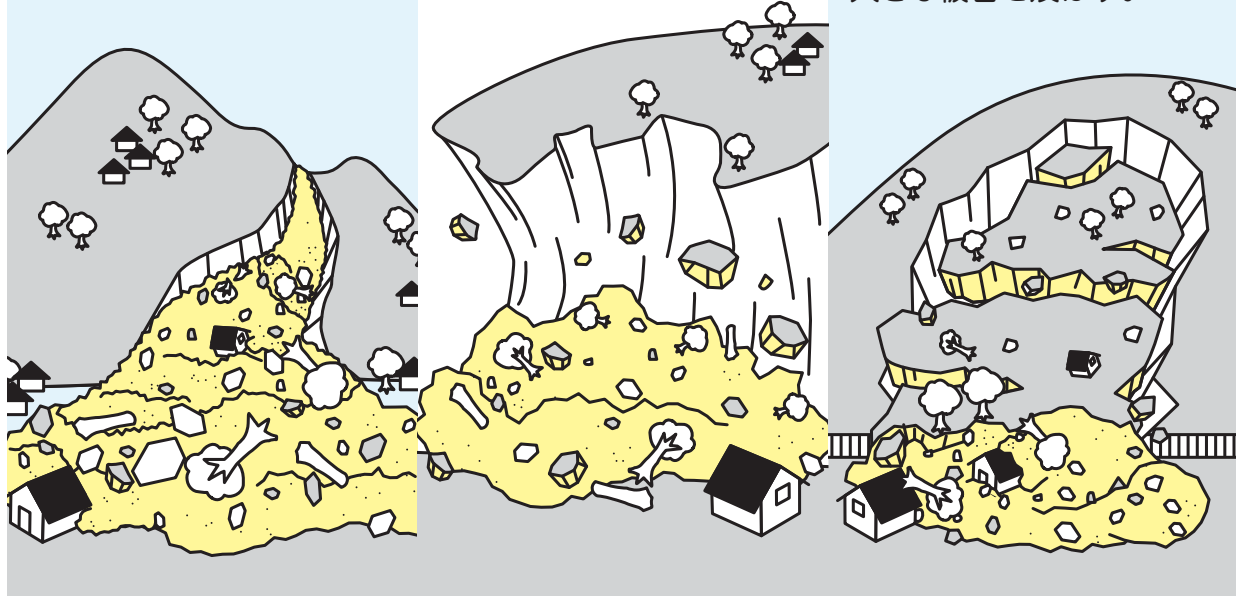
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などの影響によって、一気に下流へと押し流される。

がけ崩れ

急な斜面が雨水の浸透などによって、崩れ落ちる現象。突然発生し、かつ崩れるスピードが速い。

地すべり

比較的穏やかな斜面が地下水などの影響によって、斜面下方へ移動する現象。一度に広範囲が動くため、大きな被害を及ぼす。



土砂災害は

起こってからでは避難できない

土砂災害は前兆現象に気付くことができないまま、突然発生し、被害にあうことも考えられます。大雨のときには、土砂災害に注意が必要な区域の方は早めに警戒区域外への避難を心がけましょう。

雨が止んでも警戒を続ける

大雨を原因として発生する土砂災害の場合、その危険性の高まりには、地面にしみ込んだ雨の量(土壌雨量)が大きく関係します。雨が止んでも地盤がゆるんでいるため、土砂災害が起きやすい状態になっています。土壌雨量が安全な値になるまでは、警戒が必要です。



土砂災害の発生には前ぶれがあるの?



こんな現象に気づいたら、
まわりの人に知らせて
早めに避難しよう。



雨が降っていても
いつもと違うことが
あったら危険ね

土砂災害の前ぶれ

土石流

- 流れる水が異常に濁っている。
- 大きな木が流れてくる。
- 地鳴りや土臭いにおいがする。
- 渓流の水位が急に減少する。

がけ崩れ

- 斜面から水が湧き出す。
- 斜面から音がする。
- 斜面から何かが落ちてくる。

地すべり

- 木が傾く。
- 木の根が切れる音がする。
- 地面に亀裂や段差が生じる。
- 地面が揺れる。
- 地鳴りや山鳴りがする。

気象庁では、以下のような土砂災害発生の危険性を伝える情報を発表しています。

大雨警報(土砂災害)

- 大雨によって重大な災害が発生するおそれがあることを警告
- ※重大な災害が発生するおそれが著しく大きい場合に発表される「特別警報」は、発表された段階で命の危険が差し迫った状況になっています。特別警報の発表を待つのではなく、警報が発表された時点で身の安全を図りましょう。

土砂災害警戒情報

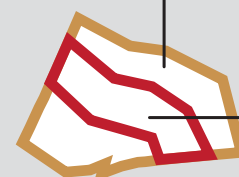
- 大雨警報が発表された後、降雨によりさらに土砂災害の危険度が高まった場合
- より一層の警戒を呼びかけるために、石川県と金沢地方気象台が共同して発表

土砂災害警戒判定メッシュ情報

- 1km四方ごとに土砂災害発生の危険度を5段階で表示
- 避難にかかる時間を考慮して、危険度の判定は2時間先まで予想されている

ハザードマップで警戒区域を確認しておこう。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)



土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に破損が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域



10ページの
デジタルハザードマップで
確認しよう





危険な状態になったことに気づけるかな？



次のような情報が発表されたら、
そのときはすぐに避難！

重大な災害がいつ発生してもおかしくない状態のときに発表される情報

土砂災害警戒情報

2時間先の土壌雨量を予測し、その値が「非常に危険」とされる基準に達し、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに発表されます。土砂災害警戒区域など土砂災害の発生するおそれのある地域の方は安全な場所へ避難しましょう。



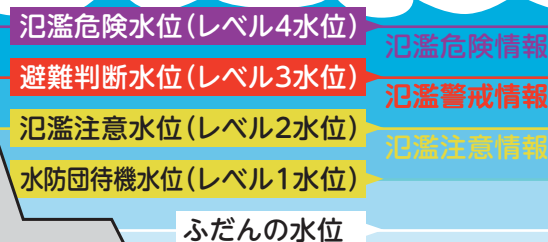
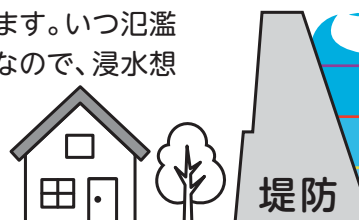
これらの情報は緊急速報として、テレビ・ラジオのほか、携帯電話やスマートフォンへ通知されます。緊急速報を受け取る設定をお願いします。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間の大雨(金沢地方気象台では1時間に100mm以上)を観測・解析した場合に発表します。発表された地域では、土砂災害や浸水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

氾濫危険情報等 ※顕著な大雨に関する気象情報

水位が「氾濫危険水位(レベル4水位)」に達したときに発表されます。いつ氾濫してもおかしくない状態なので、浸水想定区域にいる方は、安全な場所へ避難しましょう。



水位観測所の水位情報基準値 洪水予報河川(手取川・梯川)・水位情報周知河川(鍋谷川・八丁川) (単位:m)

河川名	観測所名	付近の堤防高	基準値				所在地
			レベル1水位 水防団待機水位	レベル2水位 氾濫注意水位	レベル3水位 避難判断水位	レベル4水位 氾濫危険水位	
手取川	鶴来	10.14	0.90	1.40	2.30	3.00	白山市鶴来大国町
梯川	埴田	6.07	2.00	2.50	4.20	4.60	小松市埴田町
鍋谷川	牛島	6.19	2.20	3.40	4.20	4.50	能美市牛島町
	鍋谷川橋	2.95	1.20	2.00	2.30	2.50	能美市和気町
八丁川	長野田橋	4.80	2.10	2.40	2.90	3.40	小松市長田町

(2025年4月現在)



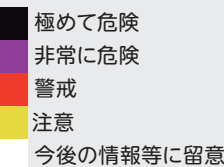
今の危険レベルを知ることができるの？



気象庁では、災害発生の危険度の高まりを
5段階に色分けして表示しているよ。

気象庁発表キキクル
『危険度分布』

危険度分布の例



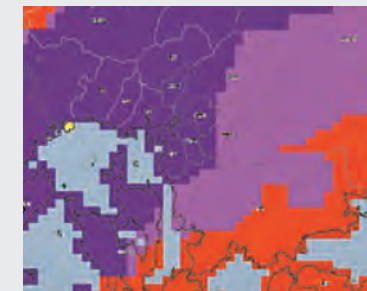
気象庁
ホームページ

地図になって
いるから
自分の地域を
確認しやすいね



土砂災害

土砂災害警戒判定メッシュ情報



石川県

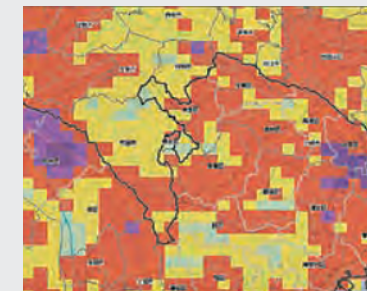
「SABOアイ」
『土砂災害危険度』

土砂災害の危険度が
高まっている地域を
確認できます。



浸水害

大雨警報(浸水害)の危険度分布



洪水 (地域の主要中小河川まで)
洪水警報の危険度分布



出典:気象庁「大雨や台風へ備えて」をもとに作成

大雨の情報は、
さまざまな手段で
確認できます。



大雨に警戒が必要なときは、テレビやラジオ、インターネットなどで気象情報を確認するほか、能美市が発表する情報にもご注意ください。

(防災行政無線やケーブルテレビ、ホームページ等)



能美市ホームページ
緊急情報



能美市ホームページ
防災情報リンク集



いつ避難を開始したらいいのかな？



気象情報などに注意して不安な時は自主避難、市から避難情報が発令されたら迷わず避難。

大雨のときの避難開始のタイミング

気象状況	発表される防災気象情報	能美市が発令する避難情報	あなたの行動
大雨の 数日～約1日前 	警戒レベル1 早期注意情報(警報級の可能性) 警報級の現象が5日先まで予想されているときに警報発表の可能性を[高]・[中]の2段階で発表		心構え ●気象情報を確認し、災害への心構えをする
大雨の 半日～数時間前 	警戒レベル2 大雨注意報 洪水注意報 気象情報(随時) 気象庁ホームページでは、気象状況の変化をより詳しく提供しています。	●注意喚起	準備 ●ハザードマップを確認し、危険な区域を把握 ●避難場所や避難経路を確認
大雨の 数時間～2時間程度前 大雨となる	大雨警報には「浸水害」と「土砂災害」の2種類があるよ 大雨警報 洪水警報	(危険な地域をお知らせ) 警戒レベル3 ●高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ●自宅にすることが不安な人、夜間に警報発表の可能性が高い場合、土砂災害警戒区域や洪水浸水想定区域などの危険な地域に住んでいる人は、避難の準備または自主的に避難を開始 ●避難に時間を要する人、または支援を必要とする人は、避難を開始
大雨が一層激しくなる・大雨が長時間続く	土砂災害警戒情報 記録的短時間大雨情報 氾濫危険情報	警戒レベル4 ●避難指示	危険な場所から全員避難 ●テレビやラジオ、市からの情報等により危険な地域を把握する ●避難対象の人は全員速やかに避難する
広い範囲で数十年に一度の大雨	大雨特別警報 氾濫発生情報	警戒レベル5 ●緊急安全確保	この段階までに避難を完了しましょう ●既に災害が発生している状況 ●命が助かる可能性が高い安全確保行動をとる ●避難に遅れ、屋外に出るとかえって命に危険が及ぶ場合は、2階以上の崖から離れた側の部屋へ避難(垂直避難)

●警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。また、能美市では防災気象情報のほか現場の状況などを総合的に判断し、避難情報を発令しているため、防災気象情報が発表されたら必ず避難情報を発令するとは限りません。



家や道路が危険な状態になる前に避難を終えたいね。



大切なのは、日頃の準備、心構え、そして、早めの避難だね。

日頃からの備えや安全な避難のポイントは34ページを見てね



ポイント

不安に思ったら避難の発令がなくても自分にとって安全と思う場所へ

自主的な避難を

※市の施設を自主的な避難のために提供する場合もあります。

避難する時必ず持っていくもの

- 最低1泊2日避難先で過ごせる分の水と食料
- 毎日飲んでいる薬
- 貴重品

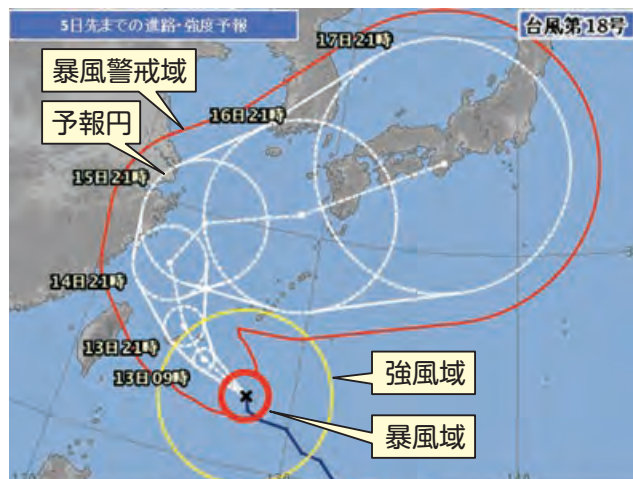


※近年の傾向として、過去に経験したことがないような災害が発生したり、避難や情報伝達の問題点を改善するため、気象庁や報道機関等が防災気象情報の「伝え方」を見直すことが多くなっています。今後、変更があった場合は、その都度、広報等でご案内いたします。

台風

台風は、7月から10月にかけて最も多く発生し、日本に接近、上陸します。
気象庁は、台風の強さや進路情報を発表しています。

5日先までの予報の例
(台風の強さと位置を予測)



出典:気象庁ホームページ
「台風情報の種類と表現方法」をもとに作成

台風が近づいているとき、
事前に何かできるかな？

天気予報などで、台風の大きさや強さ、
進路を確認し、事前に飛ばされそうな物は
屋内に片付けよう。

家のまわりを
チェック！

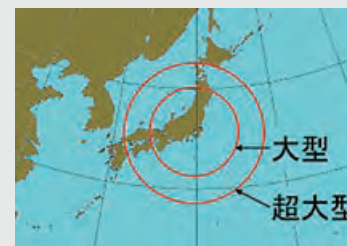
- 壁や屋根にはがれそうな部分がないか
- ガスボンベやアンテナなどがしっかり固定されているか
- 鉢植えや物干しざおなど飛ばされそうなものは屋内へ
- 家の近くの電柱や看板などに危険な状態のものがないか
- 事前に排水設備の点検・掃除をする

しっかり確認！
しっかり補強！

風の強さと吹き方

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	人への影響	屋外・樹木の様子
やや強い風	10以上～15未満	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。
強い風	15以上～20未満	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 高所での作業は極めて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始める。
非常に強い風	20以上～30未満	何かにつかまっていないと立っていられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 路標識が傾く。
猛烈な風	30以上～	屋外での行動は極めて危険	

台風の大きさと強さ



出典:気象庁ホームページ
「台風の大きさと強さ」をもとに作成

台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。
ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。
例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると左図のようになります。

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さの階級分け

階級	最大風速 (m/s)
強い	33(64ノット)以上～44(85ノット)未満
非常に強い	44(85ノット)以上～54(105ノット)未満
猛烈な	54(105ノット)以上～

竜巻

竜巻は、発達した積乱雲の強い上昇気流によって発生する激しい空気のうち巻きで、短時間で狭い範囲に集中的に被害をもたらします。



竜巻が接近したときの周囲の変化

- 空が急に暗くなる
- 大粒の雨や「ひょう」が降る
- ろうと状の雲が目撃される
- 「ゴー」というジェット機のような音が聞こえる

情報発表のタイミング

半日～1日前 気象情報

「竜巻など激しい突風のおそれ」と明記します。

数時間前 雷注意報

落雷・ひょうなどとともに「竜巻」も明記します。

0～1時間前 竜巻注意情報

「今、まさに竜巻が発生しやすい気象状況になっている」ことを知らせます。

竜巻が迫ってきたら

室内

- 窓やカーテンを閉める
- 家の1階の窓のない部屋に移動する
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る

屋外

- 頑丈な構造物の物陰に入って身を小さくする
- 物置や車庫・プレハブ(仮設建築物)の中は危険
- シャッターを閉める
- 電柱や太い樹木であっても倒壊することがあり、危険

大雪に備える

大雪になるとどんなことが起きるの？

交通障害や家屋や樹木が損壊するなど
日常生活に大きな影響を与えるよ。

！ 大雪時の混乱

大雪により市民生活に影響が及ぶことがあります。
天気予報などで大雪が予想されているときは、
隣近所に声をかけ、注意を呼びかけましょう。

- 国道県道の大渋滞、集落内の通行不能
- バスや電車など公共交通の運休
- ごみ収集の遅れ、一時中止
- 学校の休校、保育園の休園
- 孤立し、物資が不足する

！ 除雪中の事故に注意

平成29(2017)年度中の大雪による死亡原因の約9割が
除雪中の事故によるものでした(交通事故を除く)。

発生しやすい事故

- 屋根からの転落 ● 屋根雪の下敷き
- 水路への転落 ● 除雪機械に巻き込まれ

平成30年(2018年) 豪雪
日本の上空に強い寒気が入り、
日本付近は強い冬型の気圧配
置となりました。北陸の上空
5,000mに氷点下36℃以下の
寒気が流れ込み断続的に雪が
降り大雪となりました。



除雪作業をするときは次のことを心がけましょう。

除雪時の
注意

- 隣近所で声をかけ、必ず2人以上で除雪を行いましょう
事故に遭っても、すぐに発見されれば助かる可能性があります
- 雪が積もる前に、早めの除雪をしましょう
雪は重いので、多く積もる前に
玄関や車庫前などを除雪しておきましょう
- 高い場所の除雪は命綱をつけましょう
屋根の上では、命綱を柱などに固定できる
ように準備しましょう



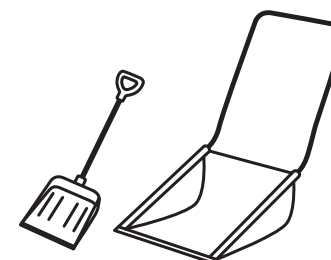
大雪の被害を減らせないのかな？

大雪で毎年被害が発生しているよ。
事前の備えや隣近所の協力で
被害を減らすことができるんだよ。

事前の備えが大切です。

大雪時は、生活機能が混乱します。
各家庭での「備え」を確認し、対策をしておきましょう。

- 外出予定の中止を検討
- 飲料水等の確保
- 灯油などの補充
- 除雪用品の確保
- 食料の補充(備蓄)
- 病院の受診、薬の受取りについて医師に相談



市民の心強い協力

- 市民除雪協力デーへの参加
- 町内道路、歩道の除雪
- 消火栓やごみ集積所の除雪
- 要配慮者宅の見守り除雪
- スリップ車両をみんなで助ける優しさ



ポイント

やむを得ず外出するときは？

徒歩の場合

- 転倒に注意し、ゆっくり歩く
- 落雪や雪に隠れた用水路に注意する

自動車の場合

- 急発進・急ブレーキ、急停車はせず、
ゆっくり慎重に運転する
- 転倒の可能性があるので、自転車や
バイクには乗らない

みんなで
豪雪を
乗り越えたね

